

令和7年度入学 一般選抜前期日程 外国語(英語) 講評

第1問

【出題のねらい】

文の構造、文法、語彙を正しく理解した上で、全体の内容を的確に把握できるかを問う読解問題である。

【講評】

全体的に3割程度の正答率であった。特に、記述問題の正答率が低かった。本文の内容を的確に理解できていない受験者が数多く見られた。全体として、高得点を取るためにも、読解部分の精読学習をすることが望ましい。

問1

語彙、接続詞、関係詞について問う問題であった。正答を導くためには、語彙の理解にとどまらず、文章内容を正確に理解していることが必要であった。全体として、語彙、文法の理解を確実にしておくことが望ましい。

問2

tipを「助言、ヒント」と捉えている誤答（氷山からの助言、氷河期の知恵など）が散見された。単語の意味を一つに限定せず、幅広く学習するようにして欲しい。また、同じ文中にPaleolithic era(旧石器時代)があったためか、icebergを氷河期と推測した誤答も散見された。

問3

下線部(イ)を含む文章の数行前の内容から、natural selectionとcultural selectionの特徴を理解できていれば、正答が導かれるものであった。段落の中で何度も繰り返される語、対比として並んでいるコンセプトに注意を払い理解していくことが求められる。

問4

Mismatchが最初に出てくる段落の周辺を解答しているだけの受験者が散見された。また、mismatchによって生ずる問題（足が悪くなったり、近視になったりすること）ではなく、mismatchそれ自体に関して述べている解答が多かった。文の論理性をきちんと理解し、読むこ

とを心がけてほしい。また、minimal を「小さい」としている解答も散見された。

問 5

正答率が大変低かった。特に、There are billions of dollars to be made by creating products that make life easier and more enjoyable and then convincing one another to buy and use them. の部分を、「(製品を作るのに) 多くのお金がかかった」と解釈する解答が多かった。make money という簡単な言い回しを見つけることが出来れば、正答に近づくことが出来たはずである。また、novel を、「小説」と訳す解答も多く見られた。単語の意味を文脈から推測する練習をするとよい。

第 2 問

【出題のねらい】

文章を読み、大意とその論理展開を理解できるかを問う問題である。

【講評】

全体的に 3 割の正答率であった。例年よりもかなり正答率が低かった。大意を理解できるように学習しておくことが望ましい。

第 3 問

【出題のねらい】

基本的な英文法、及び基本的な語彙の用法を理解し、英語で表現する際に応用できるかを問う問題である。

【講評】

全体的に、5 割の正答率であった。

問 1

動詞 take、bring、get、have の使い方が間違っている受験者が散見された。例えば、✖Could you take me bigger size? のように bring ではなく take を使っている。また、疑問文に関しては、what、how、how about の使い方が間違っている受験者も多かった。さらに、Do you try on it のような指示詞が前置詞の後に来ている解答も多かった。

問 2

最初の①は、yes/no 疑問文が入ることを認識する必要がある。また未来の話であるため未来

形を使う必要がある。Travel と trip の使い方がわかっていない受験者が散見された。③に関しては、Why did you go to Disney World?と理由を尋ねる解答が多くあったが、My host sister…と答えているため、誰と行ったのか?という質問が必要である。一緒に行く (go with somebody) の表現、who を主語とする疑問文の形、時制などに気を付けて解答してほしい。

第4問

【出題のねらい】

場面に応じた日常会話表現の理解を問う問題である。多様な場面において、広範な話題に適した表現で対応できるかをねらいとした。

【講評】

全体的に5割程度の正答率であった。会話文を読み、設定された状況を正しく想像することができる、解答を導き出すことができる。

第5問

【出題のねらい】

提示されている条件に従い、題目に関する自身の考えを、自身の立場を明らかにした上で述べることをねらいとした。

【講評】

全体的に、5割程度の正答率であった。5つ以上のセンテンスの中で、最初の文と最後の文は、単なる質問の言い換えであってはならない。例えば、第1文「I think we should save money for the future.」、最終文「So, I think I should save money for the future」など。受験者のオリジナルな考えを含むべきであるが、多くの解答ではオリジナリティと深みが欠けていた。また、第2文はたいてい「I have two reasons」としている受験者が多く、これも深みとオリジナリティに欠ける。また、将来について話すときには「will」を使い、将来について仮定の話をするときには、モーダル (might、would、could、should) をもっと上手に使ってほしい。